

JAMSTEC の海底ケーブル型観測システムで捉えた
2010年2月27日チリ中部沿岸地震に伴う津波

2010年2月27日15時34分頃(日本時間)にチリ中部沿岸でマグニチュード8.6の地震が発生し、日本を含む太平洋沿岸の各地に津波が到来しました(マグニチュードは気象庁発表による)。

北海道釧路・十勝沖、相模湾初島沖並びに高知県室戸岬沖に設置されたJAMSTECの海底ケーブル型観測システムに取り付けられた津波計及び水圧計は、2月28日の午後以降日本沿岸に到来したこの津波を明瞭に観測しました。

この津波の第一波は、釧路・十勝沖観測システムの2台の津波計(KPG1, KPG2)では13:25頃、初島沖システムの水圧計(HAT)では14:20頃、室戸岬沖システムの2台の津波計(MPG1, MPG2)では15:15頃にそれぞれ水圧の変化として観測されました(図1)。

これら水圧変化の最大振幅は、釧路・十勝沖及び室戸岬沖の各観測システムでは10cm程度、初島沖システムでは20cm程度の波高に相当しています。

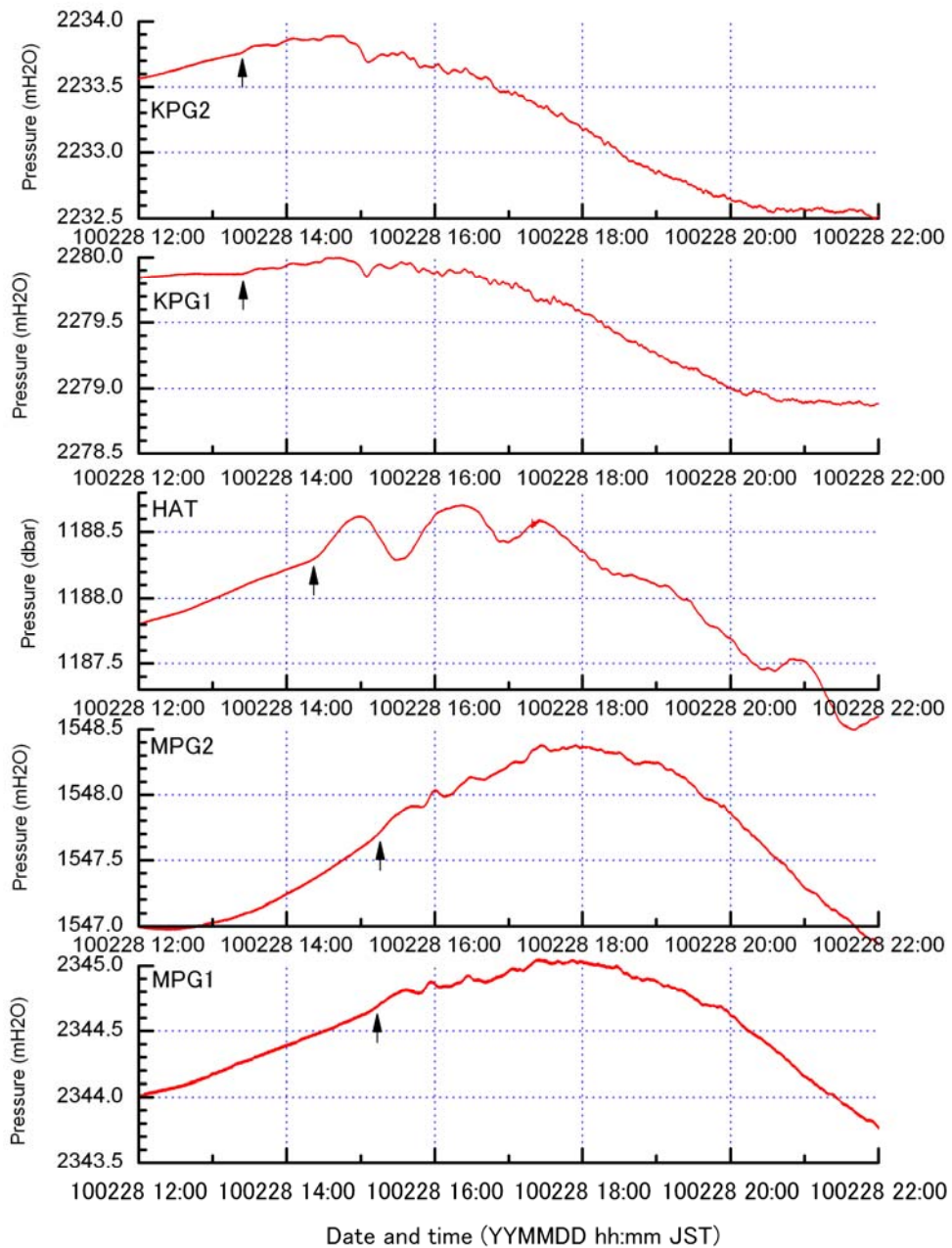


図1 JAMSTEC の海底ケーブル型観測システムで捉えたチリ中部沿岸地震に伴う津波の記録 (2010年2月28日 12:00~22:00 JST)

横軸の時刻は日本時間で、1メモリが1時間。

矢印は各センサーがとらえた津波の到達時刻をあらわす。

縦軸は、1メモリが波高約10cmに相当する。